



燃える滝二の創造

No. 31

文責：校長 岡田

■ JRC委員会のボランティア活動 ■

本校生徒会・JRC委員会が力を入れているキャップ&アルミ缶回収。昨年の集計結果をお知らせします。



- **ペットボトルキャップ** R7.6月～11月 429kg
(ポリオワクチン150人分相当、CO2削減量 858kg-CO2)
- **アルミ缶** R6.11月～R7.10月 140kg (約9,300本)

この収益金で絵本や図書カードを購入し、近隣保育園や老人介護施設へ寄贈しています。保護者の皆さんからはもちろんのこと、各自治会、川前・巣子・南巣子の3保育園からも協力をいただきました。地域の皆さんからの後押しが、生徒のモチベーションアップにつながっています。これからも生徒の心を耕すボランティア活動を継続していきたいと思っています。

引き続き、地域の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



■ 生徒会リーダー研修会 ■ 1 / 8 (木)

本校生徒会の代表生徒26名が矢巾北中を訪れ、矢巾北中・黒石野中・滝二中の三校合同でリーダー研修会を行いました。縁あって、昨年度から行っているものです。内容は、各校の学校紹介や生徒会活動の報告、来年度に向けた生徒会構想についての情報交換をした他、三校合同で合唱練習に取り組むなど盛りだくさんでした。参加した生徒たちは良い刺激をもらったようで、滝二中学生徒会の今後の活動に生かしていきたいと、意欲を新たにしています。3学期、そして来年度、新入生を迎えての生徒会活動に期待大です。

■ 大船渡新春ロードレース大会 2026 ■ 1 / 11 (日)

2026 新年のオープニング、特設駅伝部が大船渡駅伝大会に出場しました。冬休み中も早朝から体育館で走り込みを続け、新しいチームの絆も少しずつ芽生えてきてのこの大会。選手たちはそれぞれ自分たちの走りに手応えを感じたようで、来春の盛岡市内一周継走大会へ意欲を燃やしています。男子Aチーム1区：留場健心君は見事「1位区間賞」でした。初の駅伝参加の生徒もいました。

2026 新春、気候穏やかな大船渡で、チームが一つになり和気あいあい、選手たちの笑顔がたくさん見られた今大会でした。

◆ 男子 (51チーム) () 区間個人順位

| | 1区 4.3km | 2区 4.2km | 3区 4.0km | 4区 3.4km | 総合成績 |
|---|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|------------------------|
| A | 留場健心 2 13:34 (1) | 君成田楓太 2 14:19 (7) | 阿部斗極 2 17:12 (38) | 村松 篤 2 12:40 (19) | 第13位 57:45 |
| B | 本堂琉楓 3 14:42 (15) | 武田志導 1 17:05 (40) | 関口 涼 1 16:45 (35) | 細越瑛次 1 15:00 (47) | 第36位 1:03:32 |



◆ 女子 (25チーム) () 区間個人順位

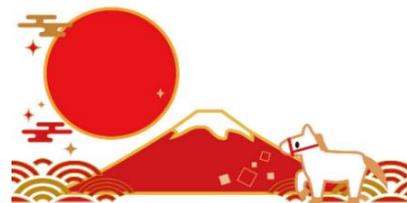
| | 1区 2.3km | 2区 3.2km | 3区 3.1km | 4区 2.3km | 総合成績 |
|---|---------------------|---------------------|-----------------------|----------------------|---------------------|
| A | 加賀谷利葉 2 8:47 (4) | 吉田凜珂 1 12:54 (9) | 下道奈々葉 1 13:28 (10) | 鍵本芽生 2 11:11 (19) | 第9位 46:20 |

■ 第3学期始業式「式辞」 ■ 1 / 14 (水)

20日間の冬休みが終わり、いよいよ今日から第3学期が始まりました。2学期の終業式で約束した通り、今こうして、全校生徒356名の笑顔を見ることができ、とても大きな安堵と幸せを感じます。

さて、新年2026年1月1日、元旦の岩手日報1面の記事は何だったか、知っている人はいますか？ 今年のトップ記事は、【岩手発 最新半導体 世界へ】という見出しでした。一部紹介します。

半導体メモリー大手のキオクシアが2026年・夏にも、北上市の第2製造棟で、最先端の第10世代、3次元フラッシュメモリーの生産を始める方向となった。データ転送速度が向上した大容量モデルで、世界的に需要が急拡大するデータセンターへ供給する見通し。北上工場は量産化と、更に次世代のモデル生産を視野に、規模を増強する余地があるとされ、『世界の半導体拠点』として、岩手の重要度が増していきそうだ。

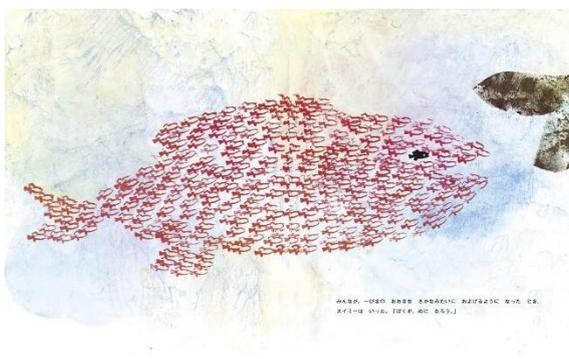


第10世代、さらに次世代…。この世の中は「何世代」まで進化していくのでしょうか。そして、そのスピードは目が回るほど早く、私のようなオジサンは、もうついていけないくらいです。岩手から世界へ。もう、岩手から仙台や東京を経由して、世界へ飛び立つ時代でもありません。岩手から直接、世界へ。今の若者たちは、言葉も文化も考え方も、ダイレクトに、スピーディーに、ワールドクラスへ引き上げなければならないのです。でも、悲観してはいけません。不安に思っははいけません。君たちには未来があり、将来があり、まだ時間があります。明るい未来に向けて、新年2026年を、爽快に走り抜けて欲しいと思っています。

加えて、元旦の岩手日報一面には、2年前の1月1日、午後4時10分に発生した能登地震の記事も、その隣にありました。石川、新潟、富山3県で災害関連死は698人、さらに追い打ちをかけるように、その年の9月には豪雨災害が発生し、20人が犠牲となりました。地震と豪雨の「二重被災」の影響は未だ大きく、プレハブなどの仮設住宅には、依然として約1万8千人が生活しているそうです。また、道路や堤防など、インフラ復旧は未だ道半ばで、皆さんもテレビなどで見ている通り、2年前のままの状態も多々あるようです。そして、今の能登の最大の問題は、「人口流出」だそうです。復旧復興をあきらめて、故郷を離れる…。去る人も、残された人も、みんなが悲しい思いをしているのだらうと思います。

世界へ羽ばたく岩手、2年経っても未だ被災に苦しむ能登、この両極にある事実を、皆さんはどう感じているのでしょうか。

能登地震が発生した2024年、日本を代表する詩人：谷川俊太郎さんが、その年の11月に亡くなりました。谷川さんについては、小学校・中学校の国語の教科書にも登場していますので、知っている人も多いと思います。2024年の暮れ、追悼番組の中で谷川さんがこんなことを言っています。「人は『踏みしめる大地と見上げる空』があるから、生きられる。過去の悲劇や挫折をしっかり受け止めて、その上に立ち、人は明るい未来や希望を思い描くのだ」と。



『踏みしめる大地と見上げる空』。実は、今年の生徒会誌『やまなみ』の巻頭言、私から卒業する3年生へ向けたメッセージの中でも紹介させてもらいました。3年生の皆さんには、自分なりの解釈をしてもらいたい言葉です。

さて、今日から短期決戦の3学期が始まります。この3学期、登校日は何日あるか、頭に入っている人はいますか？ そうです、たったの40日です。365分の40です。乱暴に言えば、1年の「10分の1」しかありません。3年生の皆さん、君たちがスタンバイする公立高校入試は、もう目の前です。戦いの極意に、こんな言葉があります。「先制攻撃は戦闘のすべてである」

どんなスポーツでも、ファーストタッチ、先制ゴール、序盤の流れが、ゲームの展開を大きく支配します。今日から始まる、たった40日間の3学期。出遅れることなく、今すぐにギアをトップに入れて、40日後の卒業式まで、みんなでスクラムを組んで駆け抜けましょう。

以上、【踏みしめる大地と見上げる空】：3学期始業式の「式辞」とします。 2026年

